

霊 聲

れ い せ い

2011年5月 (第178号)

北米ホーリネス教団
OMS Holiness Church of North America
www.omsholiness.org
reisei@omsholiness.org

御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。(コリント第一の手紙2章13節)

北米ホーリネス教会

の皆様へ

郷家一二三

(坂戸キリスト教会牧師
日本ホーリネス教団委員長)

はじめに

三月十一日午後二時四六分、東北地方太平洋沖地震が発生しました。二週間たった今も懸命な復旧活動が続いています。福島原発の放射能の危険の中で、ガソリン・水・野菜の不足、計画停電などの不安が広がり、東北関東大震災と言われるように、東日本全体に深刻な影響を与えています。北米ホーリネス教団の諸教会の皆様には、地震発生直後から、お祈りとご支援をいただき、日本ホーリネス教団を代表し、心から深く感謝申し

上げます。

教団所属の教会には大きな被害はなく、会堂の補修が必要な教会が数教会という状況です。そこで日本ホーリネス教団災害対策本部は、被害を受けた他教団の教会・幼稚園・保育園、また地域の福祉施設と避難住民への支援物資を集め、現地に届けています。今後はボランティアの派遣を、クラッシュ・ジャパンとの協力で開始します。皆様のお祈りをよろしくお願いいたします。

ご招待への感謝

今回、北米ホーリネス教団の伝統ある夏期修養会にお招きいただき、心から感謝いたします。約四〇年前、大学三年生だった私は、初めて訪米



し、修養会に出席しました。末広先生が引退される年で、葛原先生にもお会いしました。当時の諸先生のお名前が次々に思い出されます。私には衝撃的な修養会でした。広々とした場所、ゆったりした雰囲気、静かに神の御言葉を聴く聖徒の方々。本当に驚かされました。その後、各地の教会を訪問させていただき、北米の教会のスケールにも驚嘆しました。その時の講師は千代崎秀雄先生でした。あの北米体験は今も鮮明に残っています。

自己紹介

わたくしは一九五二年に埼玉県に生まれました。十八歳の時に友人を事故で失い、変わり果てた彼の遺体の前で、わたしは身体が震えるのを抑えられませんでした。死の恐れを体験した私は、その解決を求めて駆け込むように坂戸キリスト教会に行き、牧師の中野雄一郎先生・明子先生ご夫妻から信仰の導きを受けま

した。

そして一九七一年三月二十
六日の聖会で、車田秋次先生
の説教の招きに従い、主イエ
ス・キリストを受け入れまし
た。

その後、浪人中に中野先生
から進められた『熱河(ねっ
か)宣教の記録』に感動し、中
国語を学ぶ道を求めて東京教
育大学の漢文学専攻に進み、
卒業後、埼玉県で高校教師を
十二年間勤めました。不思議
な導きで、一九八五年に中国
山西省太原市の山西大学で日
本語を一年間教えました。

これがわたくしの転機とな
り、帰国後三十六歳で東京聖
書学院に入学しました。牧師
として二十年目を迎え、五十
九歳になります。村上宣道先
生の後を継いで坂戸キリスト
教会の主任牧師となり、また
日本ホーリネス教団委員長と
してご奉仕しております。立
教大学でも学び(組織神学修
士)、東京聖書学院で教えてお
ります。今も訪中し山西大学
での集中授業と山村に建設し

た二校の希望小学校を支える
働きを、市民と教会と協力し
て継続しています。

修養会への招き

修養会が私たちの信仰生活
にとつてどんなに大切なもの
か、その恵みを体験された方
には説明する必要がないほど
はつきりしています。神の御
言葉に取り扱われる恵みです。
神のご臨在の前に、信仰の新
しい覚醒が与えられ、あそ
うかと目から鱗が落ちる経験
が与えられる恵みです。自分
中心の信仰から、神中心の本
来の信仰への転換、聖化の恵
みをいただく経験です。

もちろん毎週の礼拝、毎日
のデイポーションでいただけ
る恵みも豊かなものです。し
かし修養会で、連続して集中
的に神の御前に座り込み、御
言葉に聴き入る恵みは深いの
です。主の足元に座り込んで
御言葉に聴き入っていたマリ
ヤのことが、ルカによる福音
書の第十一章に記されていま
す。主イエスは、接待の奉仕

に忙しい姉のマルタに、「マル
タよ、マルタよ、あなたは多
くのことに心を配って思いわ
ずらつている。しかし、無く
てならぬものは多くはない。
いや、一つだけである。マリ
ヤはその良い方を選んだのだ。
そしてそれは、彼女から取り
去ってはならないものであ
る。」と言われました。

日々の奉仕に忙しくしてい
ることは尊いことです。でも
忙しさが思い煩いになりかか
っているなら、まず静まるこ
とです。無くてならない唯一
のこと、わたしたちの信仰生
活から取り去ってはならない
こと、それは主の御前に座り
込むことです。そして御言葉
に聴き入ることです。

新しい場所での修養会

今回から会場をウエステイ
ン・ホテルに変更されたと同
じです。大学の宿舎と多く
の階段が、ご高齢の方には負
担になっていることに配慮さ
れてのことと聞きました。修
養会は自然の豊かな中で、と

いう方もおられるでしょうが、
主イエス・キリストはガリラ
ヤの海辺や荒野にも、エリコ
の町やエルサレムの都にもお
られた方です。若い方々は、
この修養会で信仰の先輩から
じっくり時間をかけて信仰の
交わりをいただけるのではな
いでしょうか。教会の中心的
な課題は「信仰の継承」です。

神様のものとされるホーリ
ネスの恵みを次世代に確実に
伝えることを、主も願ってお
られます。どうかすべての世
代の全ての方々が、この夏期
修養会にお集いください。

(二〇一一年三月三十日 筆)

夏期修養会 7/6~/9

会場：ウエスティン・ホテル
(LA 空港近く)

主題：「関係の回復」

人間関係の回復
神との関係の回復
真の礼拝の回復

夏期修養会へのお招き

ハレルヤ！

愛する北米ホーリネス教団の皆様、今年も七月六日から九日まで、『関係の回復』という主題のもと（主題聖句はエレミヤ三十一章三、四節）、教団の夏期修養会が持たれます。多くの方がすでにご存知のことと思いますが、今年は今まで慣れ親しんできましたウェストモント大学を離れ、ロサンゼルス空港近くのホテルを会場として持たれることになっていきます。例年に増して多くの方々が参加してくださることを期待しています。

全体集会（晩の聖会）の講師としてお招きしています。郷家一三先生は、日本ホーリネス教団の委員長としてご奉仕されておられる方で、教団内外の聖会講師としても日本で大いに用いられている器です。この夏も、私たちの教団に主の恵みの御言葉を分かりやすく、また私たちの魂へのチャレンジとして語ってください。

さることでしょう。

また、今回は会場が変わるだけでなく、プログラムの内容なども大きく変わっていく予定です。まずは数年前に行った「分科会」の復活です。先だつて行われました修養会のためのアンケートにも、分科会を持って欲しいとのご意見が多く寄せられました。それに応える形で分科会の時間を設け、それぞれの必要や興味によって選んでいただけるようにする予定です。

また、午前の聖書講義もそれぞれが必要に応じて四つの聖書講義の中から選択できるようにしました。その四つの聖書講義を中野雄一郎先生、中尾邦三先生、溝口俊治先生、玄仁先生がそれぞれ受け持つてくださり、それぞれの賜物を生かしてご用に当たってください。

さらに、午後のフリータイムも充実したものにしたいと考えています。まずは、午後の時間にもオプシオンで受講可能な聖書講義を設けます。日帰りや部分参加の方をはじめ、その他にも「午後の時間にも聖書の話をお聴きたい」と

いう方々の必要に応えるためです。

また、ゲティ・センター・ツアーやゴルフ、ハイキングなどを始め、充実したオプシオンを持たせていただく予定です。もちろん、ホテルでの開催ですから、午後の時間はゆつくりとしたいと思われ方はそれぞれの部屋でお休みいただけますし、ロビーでコーヒーなどを飲みながら信仰の友と証を合つてもよいでしょう。さらに片道三ドルでマンハッタンビーチまで行くことのできるシャトルもホテルから出ていますし、オプシオンに参加しなくても、それぞれにゆつくりとした時間を持つていただくことが可能です。

その他、英語を話される方のために、晩の全体集会には本多米先生による同時通訳が付き、また、午前の聖書講義や分科会も英語でなされるものを準備する予定です。英語を話されるご家族の皆さまも、安心してご一緒にご参加いただけます。（もちろん、英語部からの参加も大歓迎です。）

今回、参加費は今までよりも若干値上がりし、全期間参加で一人二八〇ドル（二人部屋の場合）になりますが、私共修養会委員会は精一杯の準備をさせていただいて、最高の修養会になるようにと願っています。

そのためには皆さんのお祈りとご参加が不可欠です。どうか修養会のためにお祈りください。心からお願いいたします。また、ご家族や教会の皆さんをお誘いください。多くの方々がご参加くださいますように。

主にあつて



鍵和田哲男

修養会委員会委員長

（サウスベイ・ジャパニーズクリスチャン・フェローシップ牧師）

北米日系人社会に貢献した人々

オレンジ郡教会 牧師 杉村 宰

今回は、クエーカーのリーダーであったクラレンス・ピケットについて言及しよう。戦前・戦中・戦後の日本とアメリカにおいて、百年に亘って日本人・日系人に愛の手を差し伸べ続けてくれたのは、誰あろう、クエーカーと呼ばれるフレンド派の人たちであり、彼らだけだったと言っても過言ではない。

そのリーダーがピケットであった。しかし、そういう彼らは大所帯かという、決してそうではない。

戦争直前の一九三九年の統計を見ると、一千万人近くの教会員を持つバプテスト教会の1%にも満たない九万人弱というマイノリティー中のマイノリティーであり、プロテス

タント教会全体から見ても〇・二五%に過ぎない。

さて、キリスト教界ではマイノリティーのフレンド派が他の諸団体に先駆けて、なぜリーダーシップを奮って日系人救済に立ち上がる事ができたのであろうか。その要因を考えてみたい。

まずアメリカ国内では世界大恐慌のために石炭採掘ができず貧困にあえぐ労働者たちをフレンド派の指導者クラレンス・ピケットが良く知っていたこと。その彼らを救済したいというセオドール・ルーズヴェルト大統領の「ニューデール政策」と合致したこと。さらに、ファースト・レディとしてアメリカの政策に深くかかわったエレノア・ルーズヴェルト大統領夫人が、ピケットやフレンド派関係者たちを深く信任し、親交があったことなどである。そのためにピケットのホワイト・ハウス訪問は、ルーズヴェルト大統領の就任期間だけでも百五十回以上に及んだ。またピケットは一九三三年二月以

来、クエーカー教徒であったハーバート・フーヴァー大統領（その時、彼はまだ現職の大統領）とも親交があつて、ホワイト・ハウスに招待されたり、大統領自身が彼と一緒にフレンド派の集会に出たりという関係が三十年あまり続いていたこともあり、ホワイト・ハウスとの関係が非常に密接であつた。

フレンド派が敏速に日系人に関わつた他の理由としては、ピケット個人の思い入れがある。彼の姉ミニーが東京三田の普連士学園の教師として五年間遣わされていたこと。また彼女がクエーカー宣教師のギルバート・ボレスと結婚して日本で宣教活動をしていたこと。それにミニーや母からの励ましも手伝い、彼自身が日本宣教への夢に燃えていたことなどが挙げられる。

ところが、ピケット夫人リリーが日本宣教に導きを感じていなかったこともあり、それは実現できなかった。そのような中で日米戦争という予期しない事態となり、日系人が強制収容され、カオスのような状態となったことにより、彼としては押し出されるようにして日系人と関わるようになったのである。

クラレンス・ピケットはアメリカ

の最も困難だった不況時代と、太平洋戦争前後の最も混沌とした一九二九年から一九五一年までの二十二年間、フレンド派の代表として、様々な働きの舵を取り仕切ってきた人物である。特にドイツ復興の功績によって一九四七年には「ノーベル平和賞」を受賞している。もつとも彼は、これを受賞するに値しないとして、自分ではなくフレンド派奉仕団の議長のヘンリー・カドベリーを代表としてノルウェーのオスロに送っている。

ピケットは一八八四年十月十九日、イリノイ州シカゴの郊外、シスナ・パークで生まれた。ヤング・フレンドズでは一九一九年から三年間、全米代表となつている。一九二二年にはハーヴァード神学大学を卒業後、インディアナ州リッチモンドにあるアラム大学の聖書文学教授に就任し、一九二九年にフレンドズ奉仕団の代表に就任している。

第二次大戦において彼は徴兵局と直接談判して、クエーカーが直接武力を持たない良心的兵役拒否の立場から、銃後の働き人として奉仕するよう要請した。全米で一萬二千人が兵役の代替業務に就いているが、そのうちの九五一人がフレンド派であつた（続く）。



救いの証し

ウエスレー須貝

(ホノルル教会英語部
協力牧師)



「主の御名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

ローマ人への手紙十章十三節

私がイエス・キリストを救い主として受け入れたのは、一九九二年七月十日の夜でした。この話には、いろんな裏話があります。たとえば、妻エレンが女性の聖書研究で私のために祈ってくれている間、私はいつも教会の駐車場で寝て待っていたことなど…。

では、私のような罪人を神はどのように導いてくださったのでしょうか？ 以前の私は、だれの助けも必要ないと思ってました。「やってやれないことはない」タイプの人間でした。やると決めればや

る。人にできることは、何でもできると思っていました。でも、その自分自身と自分の能力を信じざる自信が、私を神から遠ざけていました。自分で何だかって出来るんだから、神なんて必要ないでしょう？

ところが、神はそんな私から、自信・プライドを取り上げたのです。言ってみれば、神が私を砕きひざまずかせたのです。

一九八六年に、アウトリガーホテルのフロントで働き始めると間もなく会計部に昇進しました。「私」が、キャッシャー主任になり、「私」がその部署を改革し、「私」がホスピタリティー・システム・マネジャーに昇進しました。債務

部の未収金額が膨らんだとき、主任に抜擢され、集金期間を一カ月から五日に短縮しました。「私」が残業時間を月四〇〇時間からほぼゼロ時間に短縮しました。どの部署の問題も解決できると思っていました。自分で「出来るやつ」だと思っていました。そんなとき、神が私の人生をさえぎりました。神が、私の目の前に、「お前は間違った物を頼っている」という大きな警告を出されました。

債務部にいるとき、リサという若い女性をパートで雇いました。彼女には二人の小さい子供がおり、主人と別居中でした。ある日リサが債務部を辞めるつもりだと聞かされました。それは間違っている、「私が解決してやろう」、いや解決できると考えました。「私がリサを助ける」。その後二週間、リサと話をし、部署を離れることを思い止まらせようとしました。ありとあらゆる説得をし、懇願もしました。でも上手いきませんでした。初めて完全に無力を感じました。誰も助けることが出来ない、何も直すことが出来ないという無力を感じました。

その晩、アラワイ運河沿いを歩いて帰宅中に泣きながら自分の無力を神に問いかけました。なぜリサを助ける事ができなかったのか？ 自分の力のなさを感じました。初めて心底、誰かの助けが必要だと思いました。打ち砕かれ泣きながら帰宅したとき、エレンにそのことを話しました。彼女は私にイエス・キリストを救い主として受け入れる準備があるかと尋ねました。そして四つの法則を教え、信仰告白に導いてくれました。

平安が訪れ、自分の中で何かが変わりました。個人的に救い主を知った時、自分ですべてをコントロールする必要がないという平安を知りました。もっと大きな誰かが、私を含むすべての人を見守ってくださいという平安です。

私のような罪人を神はどのように導いてくださったのでしょうか？ 主を呼び求めるしかない状況に私を置かれたのです。なぜ私のような罪人も救ってくださるのか？ なぜなら主は私を愛してくださるからです。そして、主はあなたをも愛しておられます。

この度の東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。特に愛する人達を亡くされた方々の上に、未だにその安否が分からない方々の上に私達の心からの祈りを寄せさせていただきます。米国にある私達の教団にとりまして、日本という国はいつも特別な国であり、私達の祈りと思いが日本から離れることはありません。どうか神様がこの状況の中で、日本国を守り、震災からの復興を一日一日と確実になして下さいますようにと心よりお祈りしております。

北米ホーリネス教団一同

教団ニュース

■ 北米ホーリネス教団は各有志教会からの捧げものを加えて、私たちの姉妹教団である日本ホーリネス教団に義援金を送らせていただきました。これからも現地の必要に対応して、教団として援助を考えていく予定です。

主題聖句 エレミヤ書三十一章三、

四節

登録期間 四月一日～五月三十一日

会場・ウエステイン・ホテル

■ 教団総会

正教師会 七月十四日(木)

教団総会 七月十五日(金)

～十六日(土)

会場・ロサンゼルス教会

■ ハワイ聖会

七月二日(土)～三日(日)

講師 郷家一二三師

教会ニュース

■ 二〇一一年日語牧師サミット

五月二日(月)～五日(木)

■ 夏期修養会

七月六日(水)～九日(土)

講師 郷家一二三師

主題「関係の回復」

■ ロサンゼルス教会では、四月

十七日に教会創立九十周年記

念礼拝を日英合同で行います。

九十年にわたる主なる神様の

支えと祝福を感謝しつつ、辻本清臣先生を通して『すべてを主の手に』というタイトルでメッセージを伺います。

■ 去る三月二十七日にツーンソ

教会は創立十五周年記念礼拝をもちました。前任の本多一米先生にスピーカーとして来ていただき、幸いな時をもたせていただきました。教会の今後の方向性の為にお祈りくだされば感謝です。

■ サンタクララ教会では、一月

九日(日)子供たちと一緒にファミリー礼拝を守りました。礼拝後、餅つきをしてつきたの餅で愛餐会をしました。

■ 四月九日、サンロレンゾ教会

で超教派の春季聖会がもたれました。講師はサクラメント第一バプテスト教会の荒井孝喜師でした。

■ 四月二日、ウォルナツクリ

ーク教会で、東日本大震災救援イベント(バザー、フードセール、クラフトなど)が行われ、義援金二万四千ドルが集まりました。

消息

■ 中島光成師ご夫妻は、永住権を取得されました。感謝!

■ 四月に入り桜の蕾を一杯つけて木々が春風に揺れている気持ちの良い季節となりました。教会で新しく子供たちの英語教室を始めた。教会内で学びの場所が増えてきました。気持ちも新しく伝道に励もうと張り切っています。続けてお祈りください。安藤秀世

■ 上村和男師は、透析四年目に入りましたが、皆様のお祈りの支えられて今日まで守られました。心から感謝いたします。またウエストオアフ教会日本語ミニストリーは、今も約十三名で毎主日の礼拝を守っています。どうぞ覚えてお祈りください。

編集室から

▼ 「神そのまなかにいまし、その都は揺るがない。」詩篇四十六編▼日本の真の復興を願って祈ります。▼レントのしおり大変好評です。(真)